

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	2 (5) 中学校・高校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・生徒数)	おしゃまんべちようりつおしゃまんべちゆうがっこう 長万部 町立 長万部 中学校 (103 人)  ほっかいどうおしゃまんべこうとうがっこう 北海道 長万部 高等学校 (73 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・長万部高校は「持続可能な学校づくり」，長万部町も「持続可能なまちづくり」という共通の課題がある。 ・これまでも校種間や地域との連携・協働は，ある程度なされている。	
所在地 (電話番号)	〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原 138 番地 長万部町立長万部中学校 (電話番号 01377-2-2064) 〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原143番地 1 北海道長万部高等学校 (電話番号 01377-2-2069)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.oshamanbe.hokkaido-c.ed.jp">http://www.oshamanbe.hokkaido-c.ed.jp</a> (北海道長万部高等学校)				
研究のキーワード	「校種間の円滑な接続」，「Total-Win の関係」，「チーム長万部」， 「人づくりをまちづくりに」，「身に付けさせたい資質・能力の明確化」				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小学校も含めた校種間連携を通して，身に付けさせたい資質・能力を意識したまちづくりを核として系統的なキャリア教育を推進した。</li> <li>○ 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を小中高の共通テーマとし，関係者会議（長万部町教育連携会議）での研究協議や公開授業などに取り組むことができた。</li> <li>○ 指定校事業を通して，生徒や教員の変容を把握し，成果と課題を明確化することができた。</li> </ul>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

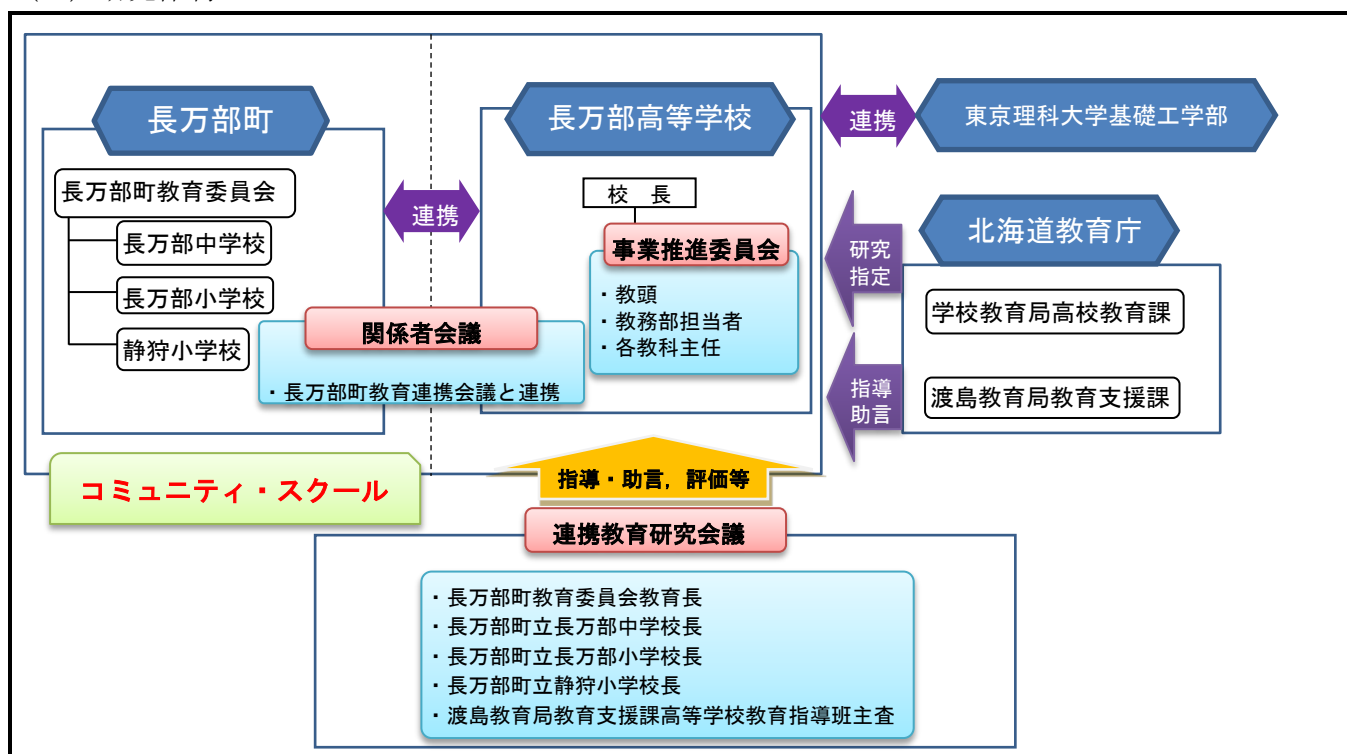
校種間の円滑な接続を核として，社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の工夫・改善や世代を超えた人づくりをまちづくりにつなげる組織体制・運営の確立に関する研究

(2) 研究主題設定の理由

現在，小中高及び町教委の連携機関として，長万部町教育連携会議を設置しており，学校運営についてテーマ設定をした協議会と，教科・分掌ごとの協議会とを 2 本柱として実施している。本会議においては，教員間の連携，学校と行政との連携体制が構築されており，一定の成果をあげている。一方，地域の実態や発達段階に応じた児童・生徒の学びの連続性を踏まえた，学校づくりとまちづくりのために，あらゆる世代の地域住民を巻き込んだ「Total-Win」の関係を構築すること等の課題がある。

このような課題解決の方策の一つとして，長万部中学校と長万部高校が主体となり「社会参画（まちづくり）の推進，キャリア教育の推進，「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進」を観点とした，社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の工夫・改善，「チーム長万部」の組織体制の構築が，さらに校種間及び地域の円滑な連携・協働を可能にし，人づくりをまちづくりにつなげることができると考え，研究主題として設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第1回連携教育研究会議（6月20日）</li> <li>・ 第2回関係者会議（長万部町教育連携会議）（9月12日）</li> <li>・ 小中高英語連携における先進校視察（北海道寿都町）（10月18日）</li> <li>・ キャリア教育の充実における先進校視察（岐阜県可児市）（11月9日）</li> <li>・ 小中高連携における先進校視察（北海道恵庭市）（11月27日－28日）</li> <li>・ 第3回関係者会議（長万部町教育連携会議）（12月14日）</li> <li>・ 第4回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第2回連携教育研究会議（2月5日）</li> <li>・ 第5回関係者会議（長万部町教育連携会議）（3月9日）</li> <li>※ 生徒や教員に対する事前・中間・事後アンケートの実施</li> <li>※ 事業推進委員会（通年 計8回）</li> </ul>
--------	---

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

ア 社会に開かれた教育課程の編成・実施

- ・ 小中高連携を通して身に付けさせたい資質・能力の明確化
- ・ 学校内での学びが自己実現やまちづくりにつながる自覚を持たせるキャリア教育の充実
- ・ 社会教育や地域住民との協働教育と長万部教育連携会議の再構築

イ 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

- ・ 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」の研究

ウ 上記ア・イを目指したカリキュラム・マネジメントの実現

- ・ 生徒や保護者，地域住民によるアンケート結果や生徒によるポートフォリオを基にきめ細やかなPDCAサイクルの実現

## (2) 具体的な研究活動

### ア 社会に開かれた教育課程の編成・実施

- ・「関係者会議（長万部町教育連携会議）」で、まちづくりを核としたキャリア教育の充実と小中高連携で身に付けさせたい資質・能力の明確化について研究協議した（年2回）。
- ・全校生徒による町の行事等への参加，地域の外部教育資源を活用した特色ある教育活動，小中高の連携事業を実施した。
- ・校種間連携や地域連携をテーマとした先進校（岐阜県立可児高等学校）視察（11月9日），NPO法人「緑塾」との連携による「地域課題解決型キャリア教育」視察（11月9日），恵庭市立若草小学校及び恵庭市立柏陽中学校における「小・中学校の円滑な学びの接続による学力向上への取組」視察（11月27日－28日）を実施した。

### イ 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

- ・「関係者会議（長万部町教育連携会議）」で、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」について研究協議した（年2回）。
- ・教科指導等の工夫・改善をテーマとした先進校視察として，北海道寿都高等学校で行われた文科省「外国語教育強化地域拠点事業」公開研究会（10月18日）に参加した。

### ウ 上記ア・イを目指したカリキュラム・マネジメントの実現

- ・生徒及び教職員に対するアンケートを実施した（年間3回。6月に事前アンケート・11月に中間アンケート・2月に事後アンケート～「PDCA×3」を活用）。
- ・公募による「将来構想委員会」の立ち上げ，学校デザインの構築と教育スローガンの制定を目的とした，校内研修会を実施した（年間3回）。

## 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 「小中高連携を通して身に付けさせたい資質・能力」や「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」についての研究協議が行われ，まちづくりを核とした系統的なキャリア教育や「主体的・対話的」という部分での授業改善を推進することができた。
- 学校と町が学校づくりとまちづくりの課題を共有し，校種間や外部の教育資源との連携・協働を進めたことで「チーム長万部」として，まちづくりを核としたキャリア教育の推進がすることができた。
- 生徒に対する事前アンケートと中間アンケートを分析すると以下のとおりになる。
  - ・全体の傾向としては，「そう思う」「だいたいそう思う」の肯定的意見（以下肯定的意見）が68%から73%に増えた（評価平均値も+0.1）。
  - ・「地域連携・協働」では，肯定的な意見が81%から97%（評価平均値も+0.2）に増えた。これは9月に行われた「町民ふれあいオリンピック＝町内会対抗の運動会」に全校生徒で参加し，地域のさまざまな年代の方々との交流・協働を通して，生徒の自己肯定感や自己有用感が高まったことが理由として考えられる。
  - ・「主体的・対話的で深い学び」では，肯定的な意見が73%から81%（評価平均値も+0.2）に増えた。特に事前アンケートでは，数値の最も低かった第2学年において肯定的な意見が60%から75%に増えており，どの教科・科目，どの学年でも「主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善」が進んでいるものと考えられる。
- 教員に対する事前アンケートと中間アンケートを分析すると以下のとおりになる。
  - ・全体の傾向としては，肯定的な意見が64%から73%（評価平均値も+0.2）に増えた。評価

の高い項目としては、「地域連携・協働」「本事業と地域社会の創造」が挙げられ、肯定的な意見が90%を超えている。また、「指導と観点別評価の一体化」は、肯定的な意見が64%から91%（評価平均値も+0.4）に増えており、教員間で生徒を多面的に評価し、それを指導に生かしていこうとする意識を高めることができた。

- 「社会に開かれた教育課程」の編成に向けて、学校の学びと実際に社会で生き抜いていくことを、どう結び付けるかという課題があり、また、校種間連携という観点からは、教員だけではなく、児童・生徒同士の学びや交流の機会を設ける必要がある。
- 学習活動を通して各教科・科目ごとの「見方・考え方」を働かせ、それを基に創造するといった「深い学び」への取組を推進する必要がある。
- カリキュラム・マネジメントの実現については、行政と学校の「Win-Winの関係」から地域全体を巻き込んだ「Total-Winの関係」を構築する必要がある。
- 生徒に対するプレアンケートと中間アンケートを分析すると以下のとおりになる。
  - ・「学びの意識」については、肯定的な意見が66%から57%（評価平均値も-0.1）に減っている。また、「キャリア教育の充実」では、肯定的な意見が50%から56%（評価平均値は±0.0）に増えているものの半数近くは否定的な意見である。ただし、第1学年にだけ限定すると中間アンケートでは、肯定的な意見が92%（評価平均値も3.0）と他の学年の倍程度評価が高くなっている。これは、第1学年の総合的な学習の時間で、地域の方々にも協力していただいた「まちづくりプロジェクト」を実施したためと考えられる。
- 教員に対するプレアンケートと中間アンケートを分析すると以下のとおりになる。
  - ・教員アンケートでは「学びの意識」について、肯定的な意見が81%（評価平均値3.0）であるのに対して、生徒アンケートでは、肯定的な意見が57%（評価平均値2.6）と低く、大きなギャップがあることが分かる。

#### 4 研究協議会の中で協議したいこと

- 研究2年目で考えている「地域づくりを核としたキャリア教育の充実」・「校種間連携を通して身に付けさせたい資質・能力の明確化」・「(校種間で連携した) キャリア・パスポートの作成」等について研究協議を深めたい。

#### 5 今後の取組

- 「学びに向かう力、人間性等」に係る生徒に身に付けさせたい資質・能力を中1から高3まで系統化、具体化、焦点化する。また、その系統化、具体化、焦点化した資質・能力を身に付けさせるために生徒が記録したワークシート（キャリア・パスポート）などを中高で持ち上がり、引き継ぐことでよりその効果を高めたい。さらに小中高での児童・生徒同士の交流を通して、長万部の良さを実感できる体験活動の系統化を推進する。
- 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施については、系統化、具体化、焦点化した資質・能力を身に付けさせるために、授業の中で教科横断、校種縦断で系統化できることを整理する（例えば、「本時の目標や学習過程を同じように示す」「振り返りのワークシートの様式を統一する」等が考えられる）。
- カリキュラム・マネジメントについては、「関係者会議（長万部町教育連携会議）」を「町全体の教育力向上のための小中高の先生方より深い連携」を目的とした組織に見直す。
- 町民にも、高校卒業段階で生徒に身に付けさせたい資質・能力についてのアンケートを実施するなどし、教科等を学ぶ意義と教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程編成を行う。